

別記様式第2号

令和 5 年 11 月 24 日

<b>行政視察報告書</b>	(会派の場合) 会派の名称			
	代表者氏名			
	(会派以外の場合) 議員氏名		待寺 真司	
参加議員	荒井直彦	議員	中村和雄	議員
		議員	待寺真司	議員
		議員		議員
		議員		議員
日 程	令和5年11月4日(土) ~ 令和5年11月6日(月)			
視 察 先	(1) 熊本県球磨郡多良木町(行政・議会・民間)			
	(2) 熊本県球磨郡多良木町(民間企業)			
	(3) 熊本県上益城郡益城町			
視察目的 (項目)	(1) 鳥獣被害対策及びジビエの活用施策について(意見交換)			
	(2) 猪成体市場の運営について			
	(3) 熊本地震からの復興施策などについて			

## (1)・(2) 熊本県球磨郡多良木町

令和5年1月の視察でもお世話になった多良木町は、熊本県南部に位置し日本3急流の球磨川を挟んで、南北に長い地勢の自治体です。豊かな森と里山、球磨川水系の豊富にあふれる水と清廉な空気が包む、自然豊かな土地柄です。総面積165.86㎏のうち80%が森林の多良木町では、林業が盛んでその最盛期には人口が2万人を超えていましたが、令和5年10月現在の人口は8596人で3653世帯となっております。

昭和30年4月1日に、多良木町・黒肥地村・久米村が合併して現在に至ります。林業とともに産業をささえるのは農業で、お米・メロン・イチゴ・きゅうりなどや、黒毛和牛の飼育や酪農も有名です。また、人吉球磨の地下水で仕込んだもろみを、現地で蒸留し瓶詰した「球磨焼酎」は町内に7か所の蔵元（人吉球磨全域では28か所）があり、関東でも名の知られている「白岳」も多良木町で生産されております。

人口減少と高齢化率（約43%）が高止まりしている現状を鑑み、多良木町では魅力的なまちづくりを進めるため、町で育まれた相良氏の歴史と伝統を受け継ぐ日本遺産を活用して「喜びと感動に満ちた」若い人を呼び込める町として生まれ変わることを目標に据えています。

### ☆多良木町の皆様との意見交換会（11月4日土曜日）

多良木町出席者            行政：吉瀬町長

議会：坂口副議長・豊永議員・林田議員・魚住議員・猪原議員・落合議員

美食の森たらぎジビエ協議会：代表 村上武春氏    副代表 池田喜久男氏

上球磨猟友会：会長 長田氏    事務局長 石田氏    会員 伊津野氏 和田氏

本年1月の訪問に引き続き、視察のテーマである「鳥獣被害対策及びジビエの取り組み」について、吉瀬町長、議員の皆様、上球磨猟友会の皆様と、和気あいあいとイノシシ肉の料理など食しながら意見交換を行いました。村上会長の精肉店からはシカ肉のロースト、池田副会長からは珍しいクジラ肉のお刺身などが提供され、改めて人間は生きとし生けるものを食し、心や体の成長があり豊かな人生を歩める生物であると認識いたしました。

シカ肉もイノシシ肉も大変貴重なタンパク源であり、これを生かさない手はありません。葉山では限られた数しか捕獲できないので、ジビエ料理を推奨して、地方で狩猟や肉の加工、料理の提供を行っている業者を支援する手立てを講じるべきかと考えます。食の恵みをただ埋設するのは好ましくないとの考えをあらためて強く認識いたしました。

この会合にも人吉新聞の記者が同席しており、その取材内容が記事になり掲載されましたので最後に添付しています。

記 待寺 真司

☆多良木町村上精肉店「猪成体市場」現地踏査（11月5日日曜日午前11時半）

\*今回で2回目の訪問である。目的は、前回の訪問で知り得たイノシシの競り売りをしているとの情報。（日本で初めてとの情報で、全国唯一の実施。11月5日を皮切りに3月まで毎月5日に開催）

\*競りにかけられるイノシシは、当日の朝持ち込まれるため、事前には分からない。



👉 全国で唯一の猪成体市場の会場 競り市開催日にはのぼり旗が各所にあった

11月5日当日は、13頭のイノシシが競り落されたが、今回は、狩猟期間前ということもあり、当日は持ち込まれる生きた「イノシシ」がいなかったことが影響して、3組の購入予定者が、競りに出席しないで帰宅された。宮崎ナンバー車等で、車台には、移動用の犬小屋が積まれていた。



👉 11月5日今年度初競り市の様子 手前は毛を湯引きして剥いである猪

最後まで、競りに出席されたが1頭も購入できなかった方は、鹿児島の方で落札価格のイノシシをその落札価格で譲り受けていた（料亭の料理人・鹿児島）。落札価格は最高で¥28,000円で、競りの価格は最低3,000円から始まり、1,000円単位でどんどん値が吊り上がっていった。今回の視察では、議会日程の関係で、11月5日の第1回目を視察しましたが、改めて今回の視察を踏まえ、今後の課題として狩猟期間中に限り、葉山のイノシシを生け捕りにした場合の安価な輸送ルートが構築可能であれば、メスの重量級のイノシシは、5万円から9万円台で販売できると考えられる。また、熊本県多良木町でのイノシシの販売は、法律・規則に反しない限り、葉山のイノシシも販売可能だと認識しているので、今後も捕獲して処分するだけでなく、新しい方向性を探ることも必要であるので更に調査研究を継続する。

記 荒井 直彦

#### ☆多良木町現地視察報告（11月5日日曜日午前中）

4日の意見交換会の際に、吉瀬町長からは多良木中学校の新校舎と文化祭を見学してはどうかとご提案いただき、是非にと返答するやいなや、佐藤教育長に電話連絡し、その後村上校長先生に確認して大丈夫との回答があり、5日の午前8時半に訪問した。また、同じく坂口副議長からも、地元の久米熊野座神社の例大祭及び社殿の改装に伴う神事があるので、是非とも玉串奉奠に参加してはとの提案がありました。あいにく神事の開始時刻には多良木中学校文化祭のオープニングイベント（吹奏楽部による演奏会）と重なっているので、玉串奉奠についてはお断りして、猪成体市場開始までの時間に見学することとしました。予定外でしたが、多良木町の皆様のご厚意により、大変素晴らしく参考となる現地踏査ができました。



👉 多良木中文化祭会場に展示された学生の作品 吹奏楽部演奏も素敵でした

久米熊野座神社の祭礼では、日田副町長、佐藤教育長をはじめ、氏子総代会会長の北崎様もご紹介いただき、地元のお祭りをしばし観覧いたしました。



👉 久米熊野神社祭礼の様子 地元の子どもたちによる奉納相撲も行われました

#### ☆熊本県多良木町中学校の文化祭及び施設見学

多良木町では、以前3つあった中学校を統合して1つになっている。また、県立多良木高校が統合され、廃校になった跡地に、新しく建設して、令和5年8月25日から供用開始。全在校生は250名（自転車通学210名、その他40名）

\*校舎玄関・入り口は 2年生・3年生と1年生専用とに分けられている。  
(貴重な施設・葉山町にも新しい校舎を建てる場合)

\*体育館は、廃校で残された体育館をリフォームして再利用。

\*敷地の隣接地は、教育委員会の新しい施設を建設中であった。

文化祭開催の大変お忙しいところ有村教頭先生に施設の案内をして頂いた。全体の敷地面積は、地域性もあるかも知れないが、広い、とにかくひろく感じた。



👉 本年8月に開校した新校舎 廊下など熊本県産材をふんだんに使用している

### (3) 熊本県上益城郡益城町（11月4日現地踏査：6日月曜日新庁舎）

益城町は、熊本県の中央北寄りに位置し、熊本市に隣接しています。空の玄関口である阿蘇くまもと空港まで7.5キロメートルの至近距離にあります。総面積は65.68㎢で東西約11キロメートル、南北約13キロメートルで、北部一帯は約20㎢にも及ぶ益城台地と称される畑地が広がっており、中央平坦部は10㎢の水田が整然と整備されており、また都市近郊型の住宅地帯が広がっています。人口は、10月現在33986人で14831世帯が暮らしています。熊本市のベッドタウンでもあり、交通の便もよく人口が増えているとのこと。ただし熊本地震の影響からかまだ戻ってこられない町民も多く存在しているとのこと。

発災後の4月24日から4日間現地に支援活動に入りましたので、その後の復興状況がとても気掛かりで、一度視察訪問したいと願っていた自治体でもあります。本年8月に新庁舎が完成したとの情報を得て、視察に伺っても大丈夫かと考え、危機管理課に視察依頼を提出したところ、受入れ可能との返答があり実現しました。



#### 👉 震災後に新しく整備された総合運動公園 図書館が同居する情報センターも

事前の質問として多岐にわたり送ったところ、関係する部課が大変多くなってしまい、恐縮するところでした。体育館や復興まちづくりセンターなどの公共施設が、月曜日が定休日のところが多かったため、4日の土曜日に自主視察を行い図書館や総合グラウンドなど現地踏査いたしました。また視察終了後のお昼休みの時間帯に、遠山議会事務局長のご厚意により議場も見学させていただきました。益城町での視察においても、皆様方の対応に本当に感激して、心より感謝申し上げます。



👉 新設された益城町総合体育館

👉 熊本城は依然復旧工事が進行中



👉 **新庁舎は全体的に空間にゆとりのある設計 議場も木の香り漂う素敵な造り**

◆益城町視察においてご対応いただきました皆様

危機管理課		岩本武継	課長
生涯学習課	スポーツ振興係	末松幸治	係長
新庁舎等建設課		内村康成	課長
企画財政課		桑原幸葉	主幹
福祉課	地域福祉課係	岩下幸子	係長
議会事務局		遠山伸也	局長

★ 2016年4月14日と16日の2回にわたって震度7の激震に見舞われ甚大な被害を受けた益城町だが、7年後の現在、町実施分の災害復旧事業1674件は100%完了し、また、復興・宅地耐震化事業は87.1%の135か所が完成している。

震災後95%まで減少した人口も、本年10月末現在98.5%まで回復している。仮設住宅は、令和5年3月に閉鎖したとのことである。町民の皆さんのご苦勞は計り知れないが、今回の視察で被災の現場を目にすることもなく、人々の生活は平穩を取り戻しているかのように見えた。

果たして、首都圏一帯が被災したとき、我々葉山町の復興はどうなるのか。限られた地方に位置する益城町のようにはいかない前提で対策を講じる必要があると、改めて肝に銘じる機会になった。何点か、参考になった点について記す。

1 技術者不足

冊子「平成28年熊本地震からの復旧・復興に向けた取り組み」に復旧ポイントとして記された「復旧には技術系職員を中心に多くの人財と多額の財源が必要に」が目にとまったので質問したところ、小規模自治体の葉山に共通した課題が見えた。

被災建築物応急危険度判定とは、住民の安全確保のために区市町村が実施主体となって、被災した建築物を外観調査し、その後に発生する余震などによる倒壊の危険性や外壁・窓ガラスの落下、付属設備の転倒などの危険性を判定するもので、区市町村が実施を宣言し行われる。益城町では、この技術者が足りなくて急場しのぎに事務職が行ったということだ。

技術者不足は、その後の復旧・復興事業の計画・実施にあたって必要になるはずであり、他自治体との災害協定の締結等により技術者の確保対策を講じておく必要がある。姉妹都市と友好都市との災害協定は言うに及ばず、できれば技術者の多い市との災害援助協定を締結しておくことと安心である。

因みに、益城町は震災後に他自治体との災害協定の締結を進め、現在は7自治体と災害協定を締結しているということである。

## 2 在宅避難者への水・食料等物資の配布

被災時益城町の人口は34499人、避難者は4月17日朝で16050人。町外に避難した人を計算に入れても約半数が避難所以外の自宅等で避難生活を送っていた計算になる。

中村が居住する葉桜住宅は、比較的地盤が安定しており、また津波の心配が無いので余震が収まると大半の人が自宅に戻ると推測している。このことから、自宅避難者等への水・食料の配布をどうしたのか尋ねた。

地区の、葉山でいえば自治会町内会長のような立場の人に物資集配センターへの出入り許可証を発行して、彼等に各地区に運んでもらったそうである。葉山でも、こうしたパイプを作る方策を具体的に準備しておいた方が良いと思われる。

なお、崩壊したがれき等のために搬送用の車を損傷した協力者もあり、二度とやりたくないと言っていた人がいたということである。

## 3 避難所の確保

近年は、屋内の避難所だけでなく学校のグラウンドや公園などで車泊する人やテント生活する人が増えている。他人の目を気にしなくて済むこうした避難の形はこれからも増えるであろう。益城町は平坦な地形でとにかく広いが、葉山町には屋外避難に適した土地がほとんど無い。その中で南郷上ノ山公園は限られた適地だ。

陸路で葉山町に入るには、南郷上ノ山公園は最適地であり、かつ唯一纏まった広さのある土地だ。隣接して南郷中学校もある。物資の搬入や救助ボランティア受け入れの最前線として活用することになるだろうが、避難スペースとしても一定の確保は必要となろう。それを前提にしたトイレや給食のための設備も必要だ。その際、公園の管理棟が重要な役割を果たすことになるが、現在の建物で良いのか。大災害を想定し、かつ平時には町民施設として利用できる多目的な施設として、民間の資金も導入して整備することも必要ではないか。



以上、3点を葉山町の課題として改めて認識したが、大地震に見舞われたときの復旧・復興の困難さは、本町が人口3500万人の首都圏に位置していることを考えると、益城町の比ではない。域外からの支援は人的にも技術的にも資金的にも多くを期待できない。まずは被害をできるだけ抑えること、そして自力復旧・復興の力を高めること、災害協定の締結等による域外からの支援力を高めることが喫緊の課題と感じた。

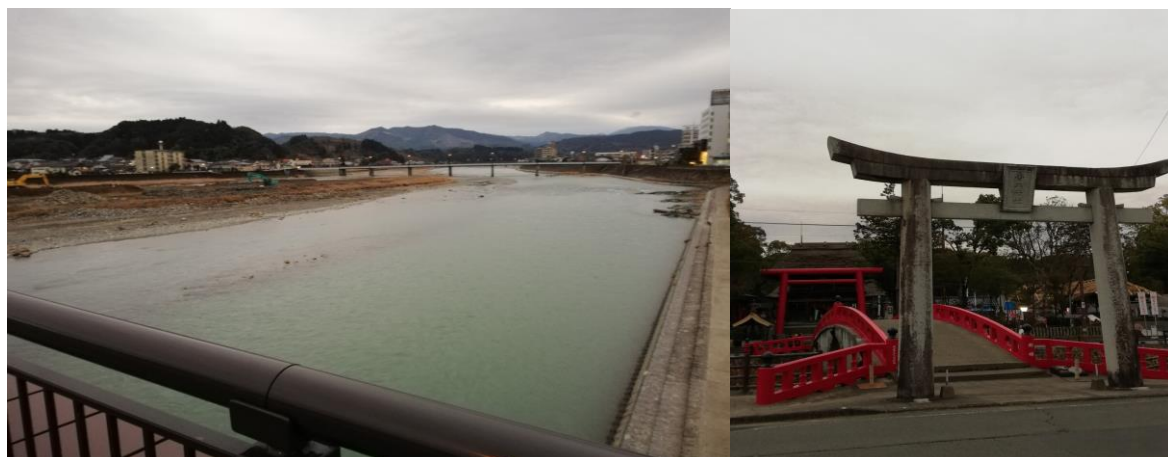
記 中村 和雄

### ☆その他現地視察報告

平成28年4月に熊本県を襲った2度の巨大地震と、令和2年に球磨川地域を襲った集中豪雨により、甚大な被害を受けた益城町と人吉市内の復興状況を見て回りました。今回初めて布田断層帯を現地踏査し、その強烈な印象がいまだに残っております。大地が避けるとはこのような状態になるのだと自然の力に畏怖の念を抱きました。1月にも訪れた青井阿蘇神社には、季節のせいもあるかもしれませんが、多くの外国人観光客が参拝していました。まだまだ双方ともに被害の爪痕は残っておりますが、より一層復興に向けてまちづくりが進んでいると感じました。



熊本地震を引き起こした布田断層帯（堂園地区）の地割れが保存されている



令和5年1月視察時の球磨川と青井阿蘇神社の様子（人吉市内）

## 球磨版

### 球磨総局

あさぎり町免田東3156-2  
電話 (0966)45-1110  
FAX (0966)45-0399

#### ❖販売取次所❖

古屋敷地区 米本商店 ☎46-1010  
湯前地区 栗須販売店 ☎43-3223  
岡原地区 松尾販売店  
☎030-3960-4047  
上地区 蔵座販売店 ☎47-0203  
須恵地区 平川販売担当  
☎090-5489-4751  
相良村地区 徳益食堂 ☎24-4011  
山江地区 稲留酒店 ☎23-4974

お酒は20歳を過ぎてから

風味芳醇  
晩酌には  
松の泉  
あさぎり町上北169番地1  
(0966)45-1118

## 鳥獣対策と活用法探る

神奈川県  
葉山町議会

### 多良木町のジビエ視察

神奈川県葉山町議会の待寺真司副議長たち3議員は4、5の両日、鳥獣被害対策とジビエの取り組みの視察で多良木町を訪れた。三浦半島西部に位置する葉山町。神奈川県西部では以前からインシシは確認されていたが、平成25年6月に初

### 4年ぶりにぎわい復活

1月に当時議長だった待寺副議長、有害鳥獣対策を担当する荒井直彦議員など議員4人が、有害鳥獣対策とジビエの可能性を探るついでに視察に訪れており、今回は2回目。多良木町とは、5年前に同町議会がスマート農業の視察で葉山町

4、5の2日間、一町をぐるりと探る。ペンション

を訪れたこと、美食の森ジビエ協議会（村上武春会長）の池田喜久男副会長と、会社員時代に待寺副議長が旧知の仲という縁。

待寺副議長、中村和雄議員、荒井議員が訪れた。4日夜は新辰巳で多良木町の吉瀬浩一郎町長と坂口幸法副議長など町議会議員、美食の森ジビエ協議会、上球磨猟友会と意見交換。村上精肉店の鹿ローストのジビエ料理も味わった。

吉瀬町長は「ジビエはフランス語だが、日本では着した感もある。ことし1月に続き再度有害鳥獣対策とジビエで来ていただきたい」、坂口副議長は「猟友会の皆さまが町の鳥獣被害防止計画にのっ



あいさつする待寺副議長

て計画的に捕獲され、村上精肉店で解体

処理、加工、販売まで行われている。昨今、猟友会の高齢化、担い手不足など課題もある」とあいさつした。待寺副議長は「町は山林が70%。住んでいる住民と山が接近している自治体で、子どもたちがけがをするような事故が置きな

うちの対策をしなければいけない。捕獲したインシシを埋設しているが、焼却して供養するとかジビエで食するなどできないか考えている」と述べた。荒井議員は「防護柵の設置で農業被害は減っているが、住民の住む裏山に出る。生活被害がないか心配。いろいろ指導いただき葉山町で生かしたい」と話した。

5日は、村上精肉店のインシシを競りにかける日本で唯一の成体市場も視察した。

花苗や新鮮野菜  
人気のハム類も  
11日「南稜祭」  
南稜高校（増村健治校長）で11日、同校の

祭、開花、農、た、ン、ち、ム、1、す、会、品、り、話、で、祭、が、体、者、の

多良木町への視察研修事業が今回も地元紙に掲載されました。

視察概要&編集 待寺 真司